

図書館だより

名古屋経済大学 図書館
名古屋経済大学短期大学部

2014.4 Vol.66

Every extension of knowledge arises from making the conscious the unconscious.

Library News

Our business for this world is not to succeed, but to continue to fail in good spirits.

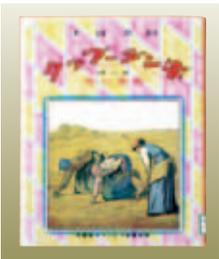
Library News Time files Library News
What is done can't be undone.
What is done can't be undone.

contents

目次

特集
貴重本紹介

貴重本紹介シリーズ 18
観察絵本 キンダーブック 創刊号
「お米の巻」(第1輯第1編)
昭和2(1927)年11月発行(復刻版)



表紙

書店で販売している絵本とは違い、幼稚園や保育所で、毎月配布される「月刊絵本」というものがあります。厳密には書籍ではなく、“雑誌”扱いとなるもので、出版社から直接幼稚園や保育所に定期購読用に販売しています。その先駆けとなるものが、今年で創刊87年目を迎える「観察絵本キンダーブック」です。

幼児教育の祖であるドイツの教育学者フリードリヒ・フレーベル(1782~1852年)の思想を受け継いだ「幼稚園」が日本で最初に開園されたのは、明治9(1876)年、今のお茶の水女子大学附属幼稚園です。その後、明治31(1898)年に制定された「幼稚園保育及設備規程」では、保育項目を「遊戯・唱歌・談話・手技」の四項目としていましたが、大正15(1926)年の「幼稚園令」の公布に伴い、「観察」の項目が加わることとなりました。これは、キンダーブック創刊当時の編集顧問でもある倉橋惣三の「子ども自身が自分を取り巻く世界を、子どもなりに知っていく。これを無視して子どもの生活はありえない。この行為を観察と呼ぶ」という考え方に基づいています。そうして当時の幼児教育者の指導・協力のもと、昭和2(1927)年、フレーベル館(1907年創業)から「観察絵本」と題した、幼稚園直販型の絵本が創刊されたのです。それは、「幼稚園」のドイツ語である「キンダーガルテン(直訳すると“子どもの庭”)」から「観察絵本キンダーブック」と名付けられました。

創刊号は、表紙のモチーフをフランスの画家ジャン=フランソワ・ミレーが描いた「落穂拾い」(1857年)とした「お米の巻」です。内容は、「米食の人種と動物(オコメヲタベルオナカマ)」、「籾蒔(モミマキ)」、「害虫駆除(ワルモノセイバツ)」など、日本人の主食である「お米」に関して、多岐に渡る内容をカラーの見開きイラストと短いキャプションで説明しています。それは非常に好評を博し、創刊号である「お米の巻」だけでも3版を重ね、「乗物の巻」(昭和3年3月発行)、「雪と氷の巻」(昭和4年1月発行)へと続いていきました。それらは一貫して、子どもたちの日常と密接に関わり、日頃の生活を通して周囲への興味関心を広げ、「観察」する力を涵養するものであったり、珍しい異国の情景や新しい技術など、子どもたちの想像力や夢を広げていくものでした。

昭和17(1942)年、戦争の色が濃くなりはじめ、題名を「ミクニノコドモ」と改め、さらに戦局の悪化した19(1944)年には休刊してしまいます。しかし昭和21(1946)年には再び「観察絵本キンダーブック」として復刊されました。その後、保育項目「観察」の考え方は領域「環境」へと引き継がれ、今も全国の多くの幼稚園保育所の子どもたちが、「観察絵本キンダーブック」が毎月手元に届くのを楽しみにしています。

2 理想

『海賊とよばれた男』を読んで
経済学部教授 伊藤 幸男

3 国内外の図書館

短期大学部教授 家接 哲次

4 読書ガイド

法学部准教授 清水 裕樹

経済学部准教授 榎平 龍宏

経営学部講師 佐藤 豊和

人間生活科学研究科教授 星野 政明

6 学生コーナー

短期大学部 田澤 春香

人間生活科学部 伊藤帆乃香

法学部 森 公裕

経営学部 丹羽麻衣奈

8 図書館からのお知らせ



米食の人種と動物(オコメヲタベルオナカマ)



籾蒔(モミマキ)



短期大学部非常勤講師
市毛 愛子



経済学部 教授 伊藤 幸男

『海賊とよばれた男』を読んで

百田尚樹さんの『海賊とよばれた男』は出光興産の創業者・出光佐三氏の伝記みたいなものです。佐三氏は1885年福岡県の現在の宗像市で生まれた方で、1981年に95歳で天寿を全うされました。一代で大会社を創った方で、優れた経営者と言っていいわけですが、出光佐三氏は他の多くの経営者とはいささか趣を異にする方です。

1953年5月9日、2万キロリットル余りの石油を積んだタンカー・日章丸が川崎港に入りました。4月15日、イランのアバダン港を出てから20日余り、イギリス海軍の追跡を見事いくぐつての帰還でした。いわゆる「日章丸事件」です。(たまたまこの稿を書いている日の「朝日新聞デジタル版」【1月13日付、昭和史再訪】にこの事件のことが載っていました。)

当時、日本はアメリカの占領下からようやく脱したばかり、国際石油資本に石油供給をがっしりと抑えられていました。出光は純粹の民族資本石油会社として国際石油資本との血みどろの戦いを重ねていました。

イランは長くイギリスやロシアなどの干渉を受け苦しみました。唯一の経済資源である石油もイギリスのアングロ・イラニアン石油会社に抑えられて、完全に搾取されていました。これを打ち破ったのが1951年のモサデク首相による石油国有化でした。しかし、誰もイランの石油を買いに来ません。イギリスが反対していたからです。イギリスは、イランから石油を積み出す船があれば拿捕(だほ)する、石油は没収、撃沈もありえる、そう言って妨害していました。そういう

中でのイラン石油輸入の成功は画期的なものでした。

佐三翁は敗戦後の苦難の中で、ただ一人の解雇者も出ませんでした。誰一人首を切るな、社員はすべてわが家族だ、と。すべての資産を売り払って、給料の足しにしました。

彼が生きている間、定年なし、出勤簿なし、タイムレコーダーなし、でした。

彼は人間尊重を掲げ、信頼に基づく経営を貫きました。出光佐三という方は愛と正義を貫く経営が可能であるということ、人間愛を経営において実践することが出来るということを証明しました。

産業革命以後、経済が急速に発展してきました。それは物質的な発展です。しかし、それだけでは本当の発展とは言えません。心がなおざりにされては意味がありません。物質欲にとらわれ、世界を破壊することにもなりかねません。科学技術の発達、経済的豊かさの実現、同時に人類愛・地球的正義の実現、つまり物心両面の幸福……こういう文明を創ることが目指されなければなりません。この文明的課題を達成するために数多くの人々が努力してきましたが、経営者の中にもそういう方が沢山います。古いところではイギリスのロバート・オーエンなどがそうでしょう。我が国で言えば、稲盛和夫・京セラ名誉会長などがそうでしょうが、出光佐三翁はその魁(さきがけ)となった方ではないかなというのが私の感想です。日本はこういう光明の経営者列伝に満ちた国であるような気がします。いつかそういうことを述べた本を書きたいなあと思っています。



ボドリアン図書館 オックスフォード大学

Bodleian Library
University of Oxford



短期大学部 教授 **家接 哲次**

▼ボドリアン図書館入り口の塔：中庭から撮影



私は、2013年夏から1年間オックスフォード大学のDepartment of Psychiatryにアカデミックビジターとして滞在しています。オックスフォード大学は、2013-2014年の世界大学ランキング(Times Higher Education 発表)で2位(ちなみに、東大は23位)にランクしており、世界的に高い評価を受けています。現在の学生数は大学生と院生を合わせて約22,000名です。この大学は、正式にいつ創立されたのかははっきりしていませんが、1096年には講義が行われたという記録もあり、英語圏では最古の大学です。現在、街中に点在する38のカレッジ(学生と一部の教職員が寝食を共にし、学ぶところ)が集まって一つの大学を構成しています。そのため大学の施設がオックスフォードの街全体に散在し、どこに大学があるのかわかりにくくなっています。各カレッジはそれぞれ立派な図書館をもっており、学生は基本的に自分が所属するカレッジの図書館を使用しますが、街の中心には大学関係者が共通に使用することができるボドリアン図書館(名称は、設立のために貢献したトーマス・ボドリーに由来)があります。この図書館は14世紀頃に建てられ、現在イギリスでは大英図書館に次いで2番目に大きなものです。歴史的な建造物のため、オックスフォードの観光名所の一つになっており、館内の見学ツアーもあります。

ボドリアン図書館に隣接している広場の中央にはラドクリフカメラ(名称は、設立のために貢献したジョン・ラドクリフに由来。カメラというのはラテン語で“丸天井の部屋”を意味する)と呼ばれる別館があります。18世紀に建設されたこの建物も観光名所の一つになっており(内部は観光客に非公開)、日頃館内では世界中から集まった優秀な学生たちが熱心に勉強しています。

先日、私が所属する研究室のスタッフに“ボドリアン図書館とラドクリフカメラは地下通路でつながっている”という話をしたところ、“オックスフォードの地下には秘密の通路が張り巡らされており、昔は大学関係者が行き来していたが現在は使用されていない”と語ってくれました。真偽のほどは定かではありませんが、映画「ハリー・ポッター」の撮影現場になったこともあるオックスフォードは、中世の香りが漂う神秘的な街です。その中央に位置するのが、今回紹介したボドリアン図書館とラドクリフカメラです。



◀ラドクリフカメラ



◀ボドリアン図書館から道を挟んだところにある「ため息橋」(Bridge of Sighs)。名称の由来は、“試験を終えた学生がため息をつきながら渡ったから”など諸説あります。

佐藤 正幸 著

『世界史における時間』

(90 頁) (山川出版社)



法学部 准教授
清水 裕樹

本書は、西暦という年号の表記法(紀年法)が、どのように出現・定着し、世界中共通のものとして用いられるようになったかという問題を扱ったものである。

思うに、西暦は便利な紀年法である。例えば平城京遷都の年を、私たちはほぼ例外なく710年と西暦で表記する。このことにより、古代日本の出来事は現代に続く時間軸上へと位置づけられるとともに、同時代の他の地域の歴史と並べて、世界史上の出来事として位置づけられるようになる。

本書は、この西暦という紀年法が便利だけでなく、いろいろ考えさせてくれる対象であることを教えてくれる。もともと西暦はキリスト紀年といい、キリスト教によりキリストであるとされたイエスが、人の子として生まれたと考えられている年を紀元とする紀年法であった。ところがこの紀年法は、今ではイエスがキリストであることを認めないユダヤ教やイスラム教を信ずる人びとの国々でも、それぞれの社会における紀年法と並んで受け入れられている。なぜそのようなことが可能になったのだろうか。このような疑問にも、本書は答えてくれることだろう。

また、紀元前という考え方が他の紀年法にないキリスト紀年独自の概念であることにも、本書は言及している。この考え方は、もとは主による天地創造から「子なる神」キリスト降誕の時点に至る出来事の年代を記述するためのものであったという(西暦以前の紀年法では、紀元から将来に向かう時間の流れしか存在しなかった。そのため、かつての西洋社会では、旧約聖書における天地創造を紀元とする、創世紀年が主流であった)。しかし現在では、紀元前4000年頃とされる天地創造の時点をはるかに超える過去でも、紀元前という概念を用いれば容易に表記可能である。

年代をどう記述するかという、日常あまり意識しない事柄にも、社会や文化を考えるきっかけがあることを教えてくれる本書は、手軽に手にとれるからこそ、じっくりと読みたい一冊である。

ジェイン・ジェイコブズ 著

『発展する地域 衰退する地域』

—地域が自立するための経済学—

(413 頁) (ちくま学芸文庫)



経済学部 准教授
楨平 龍宏

かつてラテン・アメリカやアジア途上国が資源輸出・加工品輸入による工業化の遅れによる低開発性を解消すべく採用した「輸入代替」政策(輸入していた加工品を自国内における生産・販売に置き替えること)は、域内に市場と雇用を創出し、初期段階では国民経済の一定の成長を生んだ。しかし、国内産業高度化に伴う資本・技術力不足をカバーするため、結局は一次産品の輸出による資本輸入に頼らざるをえず、国内産業保護のための財政支出の増大や官僚制腐敗、さらには国内市場の狭隘性などによりその限界が露呈し、新自由主義的な市場開放政策の有効性が強調される論拠の一つとなった。このような途上国の経験もあり、国内における地域レベルでの自給率の向上や域内需要の創出に重きを置く「移入代替」的地域振興策も同様の問題を孕んでいるとして、その実現性や実効性が疑問視されている。

ジェイコブズはイタリア北部の小工業都市群の「柔軟な専門化」(中小企業ネットワークによる効率性)によって、都市とその周辺後背地における複雑で密接な生産方法による輸入置換がなされるなかで、生産財と域内サービスのイノベーションと、臨機応変の改良を意味するインプロビゼーションを絶えず起こしている「都市の創造性」に注目し、移入品に頼っている都市の需要を可能な限り自地域生産物に置換することと、資源や一次産品等の財の移出に偏重する周辺の後背地を結びつけることによる「輸入置換都市」の創出、さらにその影響を周辺農山村へ拡大する「都市地域」の創造を主張した。また、このような「輸入置換都市」の創造・拡大は、隣接する農村地域との相互補完的な経済拡大を実現しうることを強調した。彼女の議論は、文化と経済の創造性に富んだ都市＝「創造都市」論や、都市における「創造階級」の存在の多様性やソーシャル・キャピタル(社会関係資本)に着目して地域活性化を論じたフロリダの議論等の源流ともなっている。

本書を紐解き、彼女が提起してくれた国民経済レベルの輸入代替と地域経済レベルでの移入代替を峻別するというアイデアの重要性に、ぜひ触れてほしいと思う。



読書ガイド

読書ガイドでご紹介した本は図書館にあります。ぜひご一読ください。

堀江 貴文 著

『ゼローなにもない自分に小さなイチを足していく』

(235 頁) (ダイヤモンド社)



経営学部 講師
佐藤 豊和

メアリー・E. リッチモンド 著

杉本 一義 監修

『社会診断』

(400 頁) (あいり出版)



大学院 人間生活科学研究科 教授
星野 政明

今からちょうど 10 年前の平成 16 年、ホリエモンは大阪近鉄バファローズの球団買収に名乗りを上げ、世間に登場した。彼は経営するライブドア社の株価を、株式分割を繰り返す手法によって上昇させ、自らのステータスも上昇させていった。翌平成 17 年初頭、ニッポン放送の子会社であったフジテレビジョンの経営権を握ることを画策、夏には自民党造反議員への「刺客」として衆院選に立候補した。六本木ヒルズに住み、財界、マスコミ、そして政界へと、次々と既得権益に斬り込んでいくホリエモンはまさに時代の寵児であり、バブル崩壊後、停滞し硬直化していた日本社会の秩序を打ち破っていくトリックスターであった。

だが、ホリエモンの時代は突然あつげなく終わる。平成 18 年 1 月、証券取引法違反で逮捕されたのである。ライブドア社の株価は暴落し、巨額の損害賠償を求める株主代表訴訟も起こされた。やがて収監されたホリエモンは「ゼロ」になった。

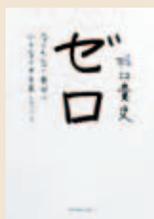
『ゼロ』は、平成 25 年 3 月に長野刑務所での 1 年 9 ヶ月の服役を経て仮釈放となったホリエモンこと堀江貴文が書いた自叙伝である。彼はこの中で、自分を変えたい人に向けて次のように書いている。「ゼロの自分に、イチを足そう。掛け算をめざさず、足し算からはじめよう。」すべてを金で解決し、何よりも利益効率を求めていると思われていたホリエモンのイメージを覆すフレーズだが、この本で語られている幼少時からの彼の半生を読めば、それがマスコミによって作られた虚像であることに気づくだろう。自分を変えたくて日々悶々としている若者にぜひ手に取ってほしい 1 冊である。

すでに数年前に原著（『Social Diagnosis』1917 年刊）を紹介したことがあるが、その翻訳書がついに刊行された。筆者も翻訳の一役を担い、おこがましいところがあるのだが、古典的な名著として知られながら、「翻訳困難」と言われていた本書が日本の読書に届けられたことは、社会福祉分野のみならず、教育学、社会学、心理学等の関連領域にも、今後を考えるうえでの大きな礎となることと思われる。

メアリー・E. リッチモンド（1861 - 1928）は、20 世紀初頭を中心にアメリカで活躍し、社会福祉関係者からは、「ケースワークの母」と呼ばれている。本書は、彼女のケースワーク活動の理論の集大成であり、初回の面接する際の留意点から、さまざまな情報収集の方法、その内容の吟味の方法など、微に入り細にわたり、現代の日本でも、すぐにでも利用できるほどわかりやすく語られている。

ネグレクトされた子供、未婚の母等への質問の基本も詳細に記され、これも現代日本において十分に通じる内容となっている。本書が、「米国のみならず、欧州各国の社会福祉関係者の間でも広く叫ばれている『リッチモンドに還れ』というキャンペーンと連動して、我が国の社会福祉界にも大きなうねりを起こす起爆剤」（解題・伊藤隆二氏）にもなるものと思う。

大著であるので、すべてを読み通すのは難しいが、ケースワーカー、あるいは福祉の道を志すものは、是非とも一度は本書を手に取り、興味を持てる部分に目を通す『意欲』を持ってほしいと願うものである。



J.K. ローリング 著

「ハリー・ポッター」シリーズ第7巻『ハリー・ポッターと死の秘宝』を読んで

短期大学部 田澤 春香

私が一番好きな本は、「ハリー・ポッター」です。小学校の頃から現在に至るまで全七巻を何回も読み返しているほどです。

「ハリー・ポッター」で一番印象に残った話は、7巻下の最後でハリーと自分の両親を殺したヴォルデモートとの戦いです。途中ハリーは何回も死にそうになりますが沢山の仲間達と一緒に戦ってくれたおかげで勝つことができた場面を見て私は感動してしまいました。一番驚いたことはハリーが一番嫌っていたスネイプが実はいい人だったことです。これにはさすがに私も驚きました。

「ハリー・ポッター」全巻をおすすめといい

たいのですがその中でも特におすすめなのは七巻で、いろんな人物の意外な過去や題名にもなっている三つの死の

秘宝の解明など今まで知ることが出来なかったことが書いてあるからです。

この本を読んだことのある人も読んだことのない人も、ぜひこの七巻を読んで欲しいと思います。



大平 光代 著『だから、あなたも生きぬいて』を読んで

人間生活科学部 伊藤 帆乃香

私はこの本を、涙で顔をぐしゃぐしゃにして読み終えました。

本書の著者である大平光代さんは中学生の頃いじめにあい、度重なるいじめに耐えきれず切腹自殺を図りましたが死ぬことができませんでした。その後非行に走り、暴走族や暴力団とも関係を持ち、人生のどん底を経験したのです。ただ友達が欲しくて、誰かに認めて欲しくて、何度も人を信じその度に裏切られ、ついには親でさえも信じられなくなり、両親にひどい言葉を投げたり、暴力を振ったりもしました。しかし、諦めずに自分を信じ手を差し伸べてくれる人に出会い、自分自身が立ち直ることがいじめをしてきた人への復讐だと気付いた光代さんは必死に勉強し、中卒にして日本で一番難しいといわれている司法書士の資格を取って、自分と同じような子どもたちを救うべく弁護士になったのです。

光代さんは自分の経験から今辛い現状にい

る子どもたちへ訴えています。今ある苦しみや悲しみは永遠には続かない。自殺なんかしても、なにも解決しない。道を外して何か悪いことをすれば全て自分に跳ね返ってくる。自分の人生も他の人の人生も大切にすべきだと。そして、自分の人生を良くするのも悪くするのも自分自身ということ。うまくいかないことを人のせいにしても、何も変わらない。

私もなにか嫌なことがあると誰かのせいにして逃げてしまいたくなるけれど、きちんと問題を受け止めてどう動くかが大切なんだとこの本に教えられました。そして、自分や周りの人たちをもっと大切にしようと思いました。今なんらかの壁にぶつかり立ち止まってなかなか動きだせない人に読んでほしい一冊です。



齋藤 孝 著『雑談力が上がる話し方』を読んで

法学部 森 公裕

雑談に意味なんて無いと言う人がいます。実際雑談に意味なんてないし、してもしなくても変わらない。私もそう考えていました。しかしこの本を読んで私の中の雑談感ががらりと変わりました。雑談とは中身の無い話です。なぜなら中身を持ってしまえば雑談は雑談からその意味を伝えるための会話に変わってしまいます。もちろんこの会話はとても大事です。でもただ意味を伝えるだけの会話はどこか途切れ途切れで寂しいものになってしまうでしょう。ここで活躍するのが雑談。雑談は中身が無いからこそ、場の空気を作る事ができるのです。「空気を読む」とかで使われる空気です。この空気を作る事で会話が円滑に進み、会話が弾むようになるのです。

この本にはこの雑談力を付けるための方法が詳しく書いてあります。これから社会に出ても役に立つかもしれない雑談のマナー教えてくれるこの本。是非読んでみてください。きっとあなたの雑談感を変えてくれると思います。



サン＝テグジュペリ 著 河野万里子 訳『星の王子さま』を読んで

経営学部 丹羽 麻衣奈

成人する前にもう一度読み返してほしい本として、ある雑誌で紹介されていたのをきっかけに「星の王子さま」を手に取りました。「星の王子さま」は、小さいころに絵本で読んだことがありましたが、今は子供のころに読んだ時よりもずっと深くて面白いものに思えました。

私が一番好きな場面は、王子さまがキツネに出会うところです。有名なセリフ「いちばんたいせつなことは、目に見えない。」とても胸に響きました。大切なことは結果ではなく、そのために費やした時間や努力であるということ。あるいは、友情や絆などの感性的な目に見えないもののことを大切にしようという意味かもしれません。表面的な情報だけでは分からない、見

えない部分に真実があるということ。このキツネからのメッセージの捉え方は人それぞれ違うと思います。あらゆる情報が飛び交う現代社会を生きる私たちこそ、このメッセージを王子さまのように素直な気持ちで受け取り、テレビや新聞で目にするニュースなどを目で見たま受け取るのではなく、それについて自分で考え正しく受け取りその奥にある真実を見つけなくてはいけないと考えさせられました。

人生の節目節目で、この「星の王子さま」を読み返してみると、色々な発見ができていいかもしれません。





新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

道路を挟んで向こう側にそっと見える大きな建物、それが名経大図書館です。図書館では学術書は勿論のこと、小説や資格の本、雑誌、新聞、DVD（※館内利用）、個人／グループブースなど、様々なサービスを利用することができます。皆さんの2年間、あるいは4年間の大学生活の中で、ぜひ図書館を沢山利用してくださいね。

■就職活動に使える!データベース



見るだけで楽しめるデータベース（データの集合体。キーワードで検索ができる）、就職活動にも役立つものを2つご紹介します。

日経BP記事検索サービス・大学版

日経BP社が発行する約50の雑誌のバックナンバー記事を検索・閲覧することができます。企業研究に役立つ「〈研究〉業界動向ウォッチ」や「〈厳選〉地域で頑張る元気企業」、膨大な量を誇る「パソコンスキルアップ講座」など、こまめに活用したい特集が盛りだくさんです。



日経テレコン 21

日本経済新聞社が提供するデータベースです。最新ニュースや日経四誌、企業情報、人事情報など豊富なコンテンツがあります。就職活動をはじめ、大学生活のあらゆる場面で活用できます。例えば希望の業種、会社名など、気軽に検索してみてください。

データベースを見るためには、大学の学内サイトから図書館HP（学内用）へ。〈データベース〉ページをご覧ください。

■DVDラックを設置しました!

入場ゲート脇の1階カウンター前に、DVDラックを設置しました。DVDのパッケージを実際に手にとることができるので、見たいDVDをより探しやすくなりました。



■読みたい本は図書館にありますか?

「勉強でこの本を使いたいけど置いていない」「あの資格の本が足りない」…… 3階カウンター前に置かれた「希望図書申込票」の利用か、「学生選書ツアー」参加で図書購入希望を出すことができます。それぞれ注意事項がありますので、お気軽にカウンターまでお尋ねください。



図書館だより Vol.66 2014.4

発行所 名古屋経済大学 図書館

発行所 名古屋経済大学短期大学部 図書館

発行 年1回

印刷所 株式会社 一誠社 TEL (052) 851-1171

〒484-0000 愛知県犬山市樋池 61-22 TEL (0568) 67-3798 (代)

ホームページ <http://www.nagoya-ku.ac.jp/lib/index.html>